令和４年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県北会場

科目　⑥障がいのある子どもの理解

◆　障がいの有無に関わらず周りの大人の行動や態度が子どもたちへの大きな影響になると学びました。体験を通して自分の伝えたいことを上手く伝えられないもどかしさや相手が何を伝えたいのかを理解することの難しさを感じました。これから子どもと関わっていくうえで分かりやすい、できやすい、やりやすい支援を心がけ、答えやすい問いかけをしたり、その子に合わせた配慮をしていこうと思いました。

◆　障がいの特性が大きくなっても、周りの環境や配慮、工夫がしっかりされていて、本人自身が対処の方法を知っていれば特性があっても困らないこと、特性がそれほど強くなくても、工夫や対処法、周りの環境の対応が十分でなければ発達障害のある子どもは、困ったり苦戦したりしてしまうことを改めて考えさせられました。障がいのある子どもが、何に困るかを予想し、どう対処したらいいかを考えながら対応していきたいと思います。

◆　障がいのある子どもが放課後児童クラブを利用することは多く、対処方法をきちんと把握し、それぞれの障害の特性を理解した上手な対応をとることが大切だと学びました。知的障害の子どもの支援では、分かりやすい、やりやすい、できやすいように、分かる言葉で実物を見せたり、工夫をすることやゆっくり繰り返し、何度も伝えていくということを今後役立てていきたいです。

◆　発達に偏りがあり、４つのタイプの名称はよく聞きますが、その子どもたちの特徴を詳しく知り、自ら体感することができ、とても参考になりました。それぞれの特徴を覚えておくことで、子どもたちの困りごとを減らす機会が増えると感じました。「できる」経験を積み重ね、より良い環境で日々生活できると良いと思うので、常に積極的に勉強し、発達・障がいについて知る努力をし続けたいです。

◆　障がいある子どもについて、分かりやすい説明やイラスト、ワークシートを用いて学ぶ研修だったので、理解しやすい内容でした。発達障害の子どもが普段抱えている不安や頑張っているのに理解できない苦しさを指導者がきちんと考え、予測し、対応してあげる大切さをとても感じました。また、７つの物の名前を書く質問のときに感じた、周りと比べてできていないかもしれないという恥ずかしくて不安な気持ちを子どもたちも感じていることを忘れず、これからも接していきたいと思いました。